

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

わたしたちの法人がフィールドにしているのは、課題がてんこ盛りといわれている過疎地域です。

しかし、大きなエリアで考えてみれば、古くは都である奈良と太宰府をつなぐ中継地を有し、屯倉と呼ばれるような豊かな穀倉地帯であったと考えられてきたのだと思います。そういったことから、穂波などをはじめとした豊かな穀倉地帯であったことを想起させる「穂」から鎌が由来するとも伝えられている嘉麻とともに嘉穂という地理的なまとまりを経て、合併から嘉麻市という行政区分が形成していったなかで、熊ヶ畑もいまの形となりました。

いずれにしても、熊ヶ畑を含めたエリアでは、脈々と農村社会としての矜持をもちつつ、現在に至ることは間違いないことです。奈良と太宰府をつなぐという要衝を有していたという観点では、大動脈であったという妄想に駆られ、鑑真や空海も行き交っていたのではないかなと思えば思うほどに、くまがはたを挙げて、ワクワクしてくることは、想像に難くはありません。

そのような延長線上に、さまざまな人たちが行き交っていた中には、チンドン屋もいたことでしょう。

まじめに定義すれば、チンドンは広告請負業ですが、その実、音楽などのエンターテインメントをつうじた、人と人との関係性というでの「社会的つながり」を育んでいく媒介であると考えられます。

まさにユーモアによって、硬直してしまった農村社会での、共同体をときほぐし、つむぎなおしていく媒体であり、媒介となりえるのではないかというくまがはたのみんなが淡い期待をしたことから、チンドン屋のような農村社会の実現へと向かうことになったのです。

ユーモアだからといって、けっして茶化しているのではなく、あくまでも想いはまっすぐ。

でも、まっすぐな想いは疲弊も同時に内在しているために、ユーモアが必要だと考えます。

農村社会の新たなあり方を実現するためには、きっと長い道のりだと思いますが、だからこそ、笑いあいながら向かっていきたい。そのような熊ヶ畑の気持ちが「チンドン屋のような」というところに体现されています。

さいごに、上記のような想いで事業を実施するにあたり、特定非営利活動法人は社員ひとりひとりに議決権があることをふまえ、地域社会における活動を進めていく上で、最も適した法人格であったため、このような形に至ったことを記しておきます。

2 申請に至るまでの経過

2020 年	小さな拠点形成委員会設立・熊ヶ畑地域将来計画を策定
2021 年	熊ヶ畑地域拠点基本計画を策定
2022 年～2024 年	拠点施設整備等審議会答申を実施後、熊ヶ畑地域拠点施設建設基本計画を策定
2024 年 6 月	市の財政状況を鑑み、改めて地域課題の整理、方針を再検討
2025 年 10 月 10 日	NPO 法人の発起人会を開催し、設立の趣旨、定款、事業計画及び活動予算、設立当初の役員などについての案を審議
2025 年 11 月 20 日	設立総会を開催し、発起人より設立の趣旨、定款、事業計画及び活動予算、設立当初の役員などの案を提案し、審議の上決定

2025 年 12 月 1 日

特定非営利活動法人くまがはちんどん
設立代表者 平嶋勝博